

小学校・中学年・導入

●所要時間 約5分 ●準備するもの 特になし

みんなの好きなこと、いやなことは何？

効果・ねらい いのちの大切さを知る

自分の好きなこと・やりたいことは「自分が元気でいてこそ」できることに気づかせ、反面それができなくなることの究極は「元気でなくなる・命をおびやかされる」ことを感じてもらう。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

【指導方法】

●指導者は子どもたちに、まず、「自分の好きなこと・やりたいこと」について問いかける。将来なりたいものなどでもよい。何人かの子どもに発表してもらう。

●それをするためには、どんなことが必要か、何が大切かなど、内容について少し掘り下げていき、次につなげる。

●「いやなこと・困ること」も問いかけてみる。最終的に、子どもたちに、「自分の好きなこと・やりたいことができなくなること」＝「いやなこと・困ること」であることに気づいてもらえるよう導けるとよい。

【指導者の声かけ・ヒント】

●「みんなの好きなこと・やりたいことって、どんなことかな？」

例:

子「サッカーが好き。Jリーグの選手になりたい」

指「サッカーをするのが好きなんだね。Jリーグの選手になるには、どうしたらいいだろう？」

子「いっぱい練習して、強くなる」

指「それじゃ、もし君が転んだり、事故にあったりして、足に大ケガをしてしまったらどうだろう？ 治るまでに長い時間がかかるとしたら、どんな気持ちになるかな？」

子「練習ができないし、つまらない。いやだ」など。

●「次は、みんなにとっていやなこと・困ったことはどんなことか聞いてみようね」

●「もしみんながケガをしたり病気になったりして元気でなかったら、そういう好きなことはできないね。元気だからこそ、いろいろなことができるんだね。でも、もし犯罪に巻き込まれて、どこかへ連れ去られたり命にかかわるようなことになったら、どうだろう？ きっと、好きなことややりたいことも、できなくなってしまうよね。実は、自分の好きなことややりたいことをかなえるために大切なのは、自分のいのちや体を守ることなんだね。

今日は、怖いことに巻き込まれていのちや体を傷つけられないよう、自分を守るためにはどうしたらいいか、学ぼうね……」など。



悪い人って、どんな人？

効果・ねらい **“不審者”について考える**

良い人・悪い人（不審者）の判断は大人でも難しく、見た目の様子だけでは決して判断できないことに気づかせる。

【指導方法】

●子どもたちに、“悪い人・不審者”のイメージをあげてもらおう。

例：帽子をかぶって、サングラスをしている男の人／黒い服装をしている人／キョロキョロしている人／ナイフを持っている人……など、いろいろな意見が出てくることが考えられる。

※あげられた意見をホワイトボードなどに書いていくとわかりやすい。

●それらの意見をふまえて、実際は、“悪い人・不審者は見かけではわからないこと”、“大人でも判断が難しいこと”を伝え、そのためには“どうやって事前に危険を回避したらよいか”、“どのように身を守ればよいか”をこれから学んでいく……とつなげる。

※ここでは結論を出さずに、「展開」で防犯や不審者について学んだ後に振り返る形で、不審者についておさらいしてもよい。

【指導者の声かけ・ヒント】

●「みんなは、“悪い人・不審者”って、どんな人だと思う？」

※「男の人かな？ それとも女の人かな？」など、性別や年齢、雰囲気、行動の様子などについてリードすると、子どもたちも答えやすい。

●「みんなが想像する“悪い人・不審者”は、こんな感じの人なんだね。でも、ちょっと考えてみよう。ほんとうにそういう格好や雰囲気をしていれば不審者だってわかりやすいけれど、実際には、周りの人に怪しまれないようにするために、わざとふつうの格好をしていることもあるんだよ。それに、不審者は男の人や若い人も限らない。不審者かそうでないかは大人でも判断が難しいんだね。

だから、みんなも見た目判断するより、そういう危険にあわないためには何に気をつけたらいいか、もしあってしまったらどうやって身を守ったらいいかを学んでおこうね……」



小学校・中学年・展開 1

●所要時間 約15分 ●準備するもの 特になし

遊びに行くときの約束は？

効果・ねらい 相談・報告

子どもが保護者の同伴なしで出かけるときの注意事項を確認し、連絡や報告がいかにかにだいじであるかを理解させる。

就学前(幼児)

小学校低学年

小学校中学年

小学校高学年

【指導方法】

●子どもたちに、一人もしくは子どもどうしで遊びに出かけるときに、いつも家の人に何と言って(約束して)出かけているかを問いかける。具体的に、「昨日」とか、「この間の日曜日にどうした？」と問いかければ、子どもたちも答えやすい。

●あげられた意見をもとに、出かける前に家の人に伝えていかないと、怖い目にあったとき、どんなことに困るのかを考えさせ、事前に伝えることの大切さに気づかせる。次に、具体的にどんなことを伝えるといいのか、だいじな約束を確認・整理していく。

- ・場所：どこへ行くか。どうやって行くか(交通手段)
- ・人：だれといっしょか
- ・時間：何時に帰るか

●家の人留守にしているときはどうしたらよいか、なども必ずフォローする。

例：電話をかける／メモを残すなど。

●基本を押さえたうえで、さらに、子どもたちが遊びに出たときに起こり得るいろいろなシチュエーションをあげて、具体的にどのように対応したらよいか考えさせる。緊急時の連絡手段も確認しておくことがだいじであることに導く。

●これらについて、ふだんから家族で話し合い、確認しておくことが大切であるということに気づかせる。

【指導者の声かけ・ヒント】

●「みんなはいつも、学校から帰った後に遊びに行くときは、家の人に何て言って出かけているかな？」

●「毎日遊ぶ場所、遊ぶ友だち、帰る時間が同じなら、お家の人に言わなくてもいい？」

●「もし家の人留守でいないときに、一人で遊びに行ったり塾に出かけたりするときは、どうしたらいいかな？」

●「出かけるときは、場所・だれと・帰る時間をしっかり家の人に伝えていけば、きっと家の人でも安心して“行っていらっしゃい”と言ってくれるね。でも、もし遊ぶ場所が変わって別な場所に移動したり、帰る時間が約束の時間より遅くなったりしたら？ 遊んでいるときにケガをしたらどうしたらいい？」

●「いざというときにあわてたり困ったりしないように、今日は家に帰ったら、こういうことを家族で話し合っておこうね。そうして確認したり決めたことは、忘れないように“家族のやくそく”として、ちゃんとメモしておくといいね」など。



防犯標語を使って楽しく防犯を学ぶ・II

効果・ねらい **危険予測／危険回避／意思表示／相談・報告**

リズムあることばでつくられたいろいろな防犯標語を楽しく覚え、防犯の基本をわかりやすく身につける。教材（ビデオやDVD、紙芝居など）で学習した後に復習的にやると効果的。



【指導方法】 p. 41 参照

防犯標語の参考例

●いかのおすし

（警視庁・東京都教育庁が考案した標語）

いか…知らない人についていけない

の…他人の車にのらない

お…おおごえを出す

す…すぐ逃げる

し…何かあったらすぐしらせる

●いかのおすし 一人前

（警視庁・東京都教育庁の許可を得て、奈良県警察が「いかのおすし」に「一人前」をつけたもの）

※「いかのおすし」は同じ

一人…「一人」であそばない

前…「出かける前」におうちのひとに「だれと」「どこへ」行くのかをいう

●きょうはいかのおすし

（警視庁・東京都教育庁の標語を小学生くらいの子ども向けに、子どもの危険回避研究所がアレンジしたもの）

きよ…きより（距離）をとる

う……うしろ（後ろ）によく気をつける

は……はやめ（早め）に帰る

※「いかのおすし」は同じ

●つみきおに・五つのやくそく

（警察庁が考案した標語）

つ…ついていかない

知らない人に声をかけられてもついていかない。

み…みんなと、いつもいっしょ

一人で遊んだりどこかへ行ったりしない。
みんなと、いつもいっしょにしよう。

き…きちんと知らせる

出かけるときや何かあったときはきちんと知らせる。

お…おおごえで助けを呼ぶ

知らない人に連れていかれそうになったら
大声で助けを呼ぶ。

に…にげる

こわいと思ったら、すぐになげる。

●おおだこポリス・4つのおやくそく

（幼い子どもたちに分かりやすく身につけてもらうために、神奈川県警察の警察官が作成した防犯心得の啓発歌）

お…おうちのひとにいつてきます！

お…おともだちとあそぼうね！

だ…だまされてついていかない！

こ…こわくなったら大きな声で！



小学校・中学年・展開 3

- 所要時間 約15～20分
- 準備するもの 特になし

突然腕をつかまれたときはどうする？

効果・ねらい 危険回避

だれかに突然腕をつかまれたときに、腕をふりほどく方法を学ぶ。
足を踏んだりかみつくななどの方法は、逆に相手に刺激を与え、子どもを危険にさらすことにもなりかねない。腕をふりほどき、すきをついて逃げる方法を体得する。

就学前
(幼児)

小学校
低学年

小学校
中学年

小学校
高学年

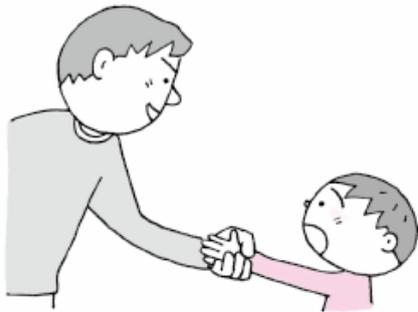
【指導方法】

- 代表の子ども(一人)に、前に出てきてもらう。
- 指導者と子どもが1対1で向き合い、指導者が子どもの片腕をつかむ。どうしたらその腕をふりほどけるか、子どもにいろいろ試させる。
- 腕をふりほどく方法を教え、再度、子どもに試してもらう。(イラスト参照)
- 何度も練習して自分のやりやすい方法を体得しておくことが、いざというときに役立つことを伝える。思い切りやりすぎて、ケガをしないようにすることもつけ加える。

【指導者の声かけ・ヒント】

- 「腕を外そうと一生懸命ゆらしたり引っばったりすると、逆に強くにぎられて、ほどけなくなってしまうこともあるんだよ。また、相手と闘おうとすると、反対に刺激を与えてしまい、もっと危険なことになるかもしれない。まず腕をふりほどくこと、そして素速く逃げること(p.43参照)が大事なんだね」

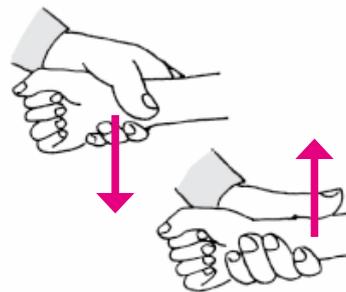
※腕をふりほどく方法は、いろいろ対応策が言われていますが、所轄の警察署内で十分検討した上で指導をしてください。ここにあげた方法も、状況に応じては完璧とは言えません。子どもの発達度合いに応じて、適切な立ち回りの方法を指導してください。



〈手を組んで大きくふり回す〉
両手を組み合わせて、大きくふり回して(回転させてねじるようにして)ふりほどく。



〈つかまったら「上にポンッ!」〉
手を開いて、ひじを曲げながら「上にポンッ!」という感じで引き抜く。ひじはかならず相手のほうに突き出しながら曲げるのがコツ。



〈上から下へ、下から上へ〉
腕を上からつかまれたら下へ、下からつかまれたら上へ、力を入れて引き抜く。相手の手先が空いている方向へ抜くのがコツ。

不審者への体の向き合い方

効果・ねらい 危険回避

もしだれかに近寄られても、つかまえられたり大きな被害を受けることを事前に回避する距離・構えを学ぶ。

【指導方法】

- 代表の子ども(一人)に、前に出てきてもらう。
- 指導者と子どもが1対1で真っ正面に向き合う。(p.36参照)。指導者は子どもに話しかけたり腕をつかまえようと、近づくまねをする。このとき相手にどういう角度で向き合っていればつかまりにくいかを、子どもに考えさせる。
- 不審者に対する体の構えを教え、もう一度子どもに試してもらう。〈イラスト参照〉
- 何人か代表の子どもに出てきてもらい、実際にやってみる。終わったら、それぞれの子をしっかり評価する。

【指導者の声かけ・ヒント】

- 「こうして向き合って話をするときには、〈前へ習え〉の距離より少し間を広くとっておくといいね。
次にだいじなのは、そのときの体の向きだよ。もし真っ正面を向いて立っていたら、どうかな？ 相手につかまれにくい体の向きは、どんな角度だろう？」
- 「相手の真っ正面に立つと、腕をつかまれやすいし、もし相手がナイフなどの凶器を持っていたら、ケガをさせられてしまうかもしれない。そんなときは、相手が出してきた手と逆の足を一歩うしろに引いて、半身の構えをとろう」
「こうすると、君の片方の肩や腕は前にきいても、体の真ん中は相手に向いていないからおそわれそうになってもケガをする場所が少なくてすむ。しかもこの構えをしていれば逃げやすいし、腕をつかまれそうになっても、うまくすりぬけることができるよ」
(※p.50参照)



〈半身の構え〉

相手が出してきた手と逆の足を“一歩後ろ”に引いて半身の構えになる。もし凶器で襲われそうになった場合でも、体へのダメージが最低限に抑えられる。

防犯ブザーについて

子どもが携帯している防犯グッズの中で、もっともポピュラーなものが防犯ブザーです。
平成18年には、「防犯ブザーの性能基準」が策定され、音についても一定の基準が定められました。
指導時の参考にしてください。

●音を確認

「性能基準に適合する防犯ブザーの サンプル音で、音を確認」

子どもを犯罪から守るには、周囲の大人が防犯ブザーの音に気づいてあげることが重要です。

「防犯ブザーの性能基準」を満たした防犯ブザーを持たせる(勧める)と同時に、大人も実際にこの防犯ブザーのサンプル音を聞いて、音を確認しておくことが大切です。保護者や地域ボランティア等にも周知させましょう。

子どもを犯罪被害から守るための取り組みとして、警察庁では、文部科学省及び経済産業省とともに、(社)全国防犯協会連合会、(社)日本PTA全国協議会及び(財)電池工業会の協力を得て策定した性能基準*に適合する防犯ブザーの普及促進に努めています。

*防犯ブザーの性能基準の主な内容(平成18年11月30日策定)

- 音色：高い周波数と低い周波数を繰り返す変動周期を持つこと。
- 音量：85db以上とすること。
- 連続吹鳴時間：連続して吹鳴させた場合に、指示音量の90%以上の音量が20分間以上保てること。
- 操作性：引き紐あるいは押しボタン等の操作は自動が容易に操作できること。



《サンプル音を聞くことができるHP》

警察庁

<http://www.npa.go.jp/safetylife/seianki67/index.html>

(財)全国防犯協会連合会

<http://www.bohan.or.jp/buzzer/index.htm>

●つける場所は

外から見える場所につける・持ち歩く

…犯罪の抑止効果が高まり、子どもに危機管理意識を持たせる効果もあります。

すぐに使える場所につける

…ランドセルなら背負いベルトの胸に近い位置に、手提げバッグなら取っ手など、すぐに手の届く場所につけるよう指導します。首から上げると、引っかかって首が絞まる危険性があります。キーホルダータイプやリストバンドタイプなど、取り付け方も様々な種類があるので、新たに購入するときは家族でよく検討し、子どもにとって使いやすい防犯ブザーを選ぶよう指導しましょう。

●実際に使えるか確認

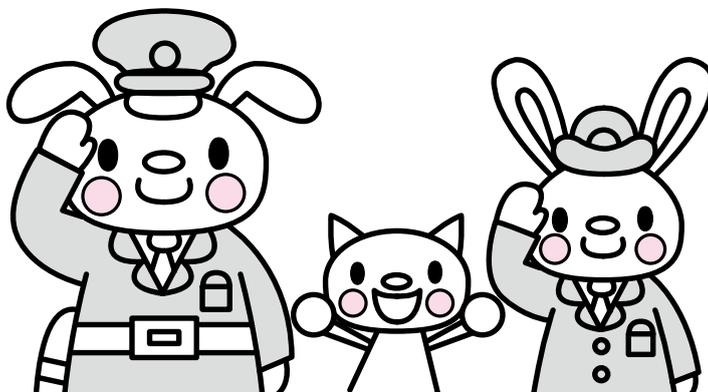
電池は？機能は？定期的にチェックを

…電池が切れていれば、新しい電池を入れ換えるよう指導を。ブザー自体が壊れていて音が出ないこともあります。壊れていれば新しい防犯ブザーに替えるよう指導しましょう。

定期的なチェックがだいじであることを伝えましょう。



小学校・中学年 まとめ



【基本】

防犯意識を高め、定着させるためにも、

- その日習ったことの要旨をふりかえらせる。
- 習ったことを、友だちや家の人と、生活の中で話し合う機会を持たせる。

ポイント

- その日学んだことのおさらい(ふりかえり)は、子ども自身に発表させる。
- 学んだことの感想を述べさせる。

※学んだことを子ども自身に発表させることで、内容の定着をはかります。

さらに感想を述べさせることで、安全・防犯学習により関心を持ち、積極的に取り組む姿勢を促します。

※防犯教室開催中、特に怖がる様子が見られる子がいたら、先生につき添ってもらってその場を退席させるようにしましょう。もし今までに何か怖い経験をしたことがあれば、心のケアが必要かもしれません。専門医の診断を受ける方法もあることを学校側に伝えましょう。

〈参考：しめくくりのことば〉

「3～4年生になると、低学年のころよりずっと行動範囲が広がりますね。もしかしたら今まで乗らなかった電車やバスにも一人で乗ったり、お友だちどうして乗って、遊びに出かけることがあるかもしれません。行動範囲が広がると、いろいろ楽しいことを見たり経験する機会が増えますが、それは一方で、それだけ危険が増えるということでもあります。そんなときは今日学んだことを思い出して、しっかり行動しましょうね」